

## 第5回シュリ・サラデシュムク・マハラジ奨学金授与式 レポート

Dr.チャンドラカント・サラデシュムクの父であるサラデシュムク・マハラジは、インド伝統芸術、科学、文化などを多くの弟子に教え導くことにその生涯を捧げました。マハラジのヴィジョンであるインド伝統文化の継承のため、2008年 Dr.チャンドラカントと Dr.プー ज्याが、奨学金制度を創設いたしました。インド伝統音楽に専心している若手の有望な音楽家に、毎年奨学金を授与してきました。

2012年12月23日(日)18時より、インドマハラシュトラ州プネ市ダムレ・ホールで、第5回シュリ・サラデシュムク・マハラジ奨学金授与式が行われました。今年度は、シタール奏者のニディ・チトゥカリヤさんに贈られました。彼女はバナシュリ大学でシタールを学び、現在は Dr.ラギニ・トリヴェディのお弟子さんの Dr.サントーシュ・パタックの指導の下、博士号取得の勉強中の方です。この授与式は、新聞で紹介されました。

授与式は Dr.プー ज्याの挨拶から始まり、奨学金とサラデシュムク・マハラジと Dr.チャンドラカントの2人の記念写真が、ニディさんに贈られました。インドではグル・シッシャと呼ばれる師匠と弟子の伝統的なあり方の中で、文化が伝えられます。グルである Dr.ラギニから、シッシャである弟子のニディさんに手渡されました。

ニディさんがお礼のスピーチを述べ、続いて Dr.ラギニがスピーチをしました。Dr.ラギニは、有名なヴィチットラ・ヴィーナ奏者の Dr.ラルマニ・ミシュラを父に持ち、現在は大学院でシタールの教授を務めています。Dr.チャンドラカントのCD「ピュア・ジョイ」を聴いて、インド伝統音楽の造詣の深さに驚き、すぐに連絡をとりました。それ以来、2人の家族ぐるみの交流が続きました。Dr.ラギニがお父様とお兄様をたて続けに亡くすという大変な悲しみの時に、Dr.チャンドラカントの思いやりの深い言葉に慰められたというスピーチには、感動のあまり、涙ぐむ方もいらっしゃいました。

ニディさんのシタール演奏が20分ほどありました。タブラ奏者は、Dr.チャンドラカントと共演したことがあるウメーシュ・モゲさんです。彼女がシタールを演奏している時は、実年齢よりかなり上に見えるような風格さえ感じられ、聴衆からは2人の奏者に惜しみない拍手が送られました。



会場のダムレ・ホール



Dr.プー ज्या・サラデシュムクの挨拶



奨学金と記念写真の授与



ニディ・チトゥカリヤ、シタール奏者のスピーチ

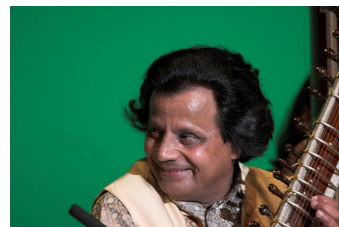


ラギニ・トリヴェディ博士のスピーチ



Dr.チャンドラカントの写真の前でのシタール演奏

続いて、2007年日印文化交流50周年に行われたDr.チャンドラカント・サラデシュムクの日本での活動を編集したDVDが上映されました。ダルシヤナムでは、数多くのコンサート、音楽療法、マントラ・チャンティングなどを企画、運営しました。琴、三味線の邦楽楽器と共演したコンサートはとても珍しく、興味深く見入っている方々、また、途中で素晴らしい演奏に拍手をする方々などで、会場は大変盛り上がりました。最後には、Dr.チャンドラカントのグル・マントラが流れ、式は終了しました。



2007年のDr.チャンドラカントのコンサートなどの音楽活動の紹介

Dr.ラギニから教えていただいた中でとても感銘を受けたお話があります。「音楽家はいつも幸せでいること。また、内側から沸きあがる感情を表現することが音楽家にとって大切なこと」とおっしゃっていました。ニディさんはDr.ラギニの教えのとおり、いつも幸せな微笑を絶やさず、心の中の静けさと同時に、豊かな感情をあわせもったシタール奏者のように感じました。今後の活躍が楽しいシタール奏者です。益々のご活躍をお祈りしております。



ニディ・チトゥカリヤさん